

メディア・リテラシー論文計画（2003年11月4日作成）

1. 状況分析

1. 1 要求分析

A. 提出すべき文書に関する具体的な条件

- ・文書の種類（企画、報告、提案・・・）
 - －学術論文
- ・テーマの分類（どんなジャンル？）
 - －情報教育、メディア・リテラシー
- ・分量に関する条件
 - －A4・2段組（取りあえずCE研究報告のスタイルで）、7～8枚
- ・期日
 - －11月15日第1稿完成

B. 読み手に関する条件

- ・想定される読み手の属性
 - －大学教員、研究者
- ・読み手の専門性（読み手は対象分野において専門家なの？）
 - －計算機科学をバックグラウンドに持つ情報教育の研究者、教育工学の研究者・・・
 - ・理科系・工学系の人である可能性が高い（現時点では提出学会が確定していないため推測）
- ・読み手の文化的な条件（趣味、嗜好、世代）
 - －理工系の文化（→実証的な議論、仮説検証的な思考法）、教育研究に対する関心（→現場からの知見の重視、具体性のある研究への要求、質的な研究手法への関心）、メディア研究への関心（特に情報メディアの社会的インパクト・教育現場でのメディア活用等への関心、理工系の専門分野を持ちつつ人文科学的観点も有する、メディア・リテラシーへの期待と不安）、世代は40才以上（推測）

C. 要求の文脈

- ・要求者と自分との関係（自分と要求者の間柄の性質）
 - －（1）論文査読者（最終的な要求者）、（2）O先生（指導教官、1次的な要求者）
- ・要求の背後にある要求者の意図
 - －（1）学会誌の質を維持するような論文を掲載すること、そのことによって

当該学会のアイデンティティを守ること、（2）できるだけ早く確実に学位の条件をそろえること、情報教育としてのメディア・リテラシーを「売り物」になるレベルまで向上すること、「データを伴った議論」を加えることで評価されやすい研究にすること

1. 2 自己分析

A. 作業条件

- ・テーマに関する自分の習熟度
 - －何を研究結果として提示すべきか（あるいは、そもそも何を明らかにする研究なのか）という点に揺れがある（今回の論文の最大の弱点）、「教育研究」の一環としてのデータを伴った論文のまとめ方（データの分析、結果、あるいは評価の記述）は途中の研究手法も含めて大変弱い（上述の弱点とも大きく関連する）、メディア・リテラシーと情報教育との関係についてはラフな見取り図を持っている、下敷きとなる理論としての記号学に関してはだいぶこなれてきた
- ・調査の必要性
 - －データはある。参考文献、関連文献については手元にあるものを中心に参照
- ・資料へのアクセス
 - －インターネットと大学図書館が中心。大学図書館で欧文主要文献を押さえる必要があるかもしれない
- ・生産手段が確保されているかどうか
 - －自宅 Mac とプリンタ。プリンタについては黒インク切れの危険あり（早期に購入のこと）。場合によって大学の Mac 端末（快適なネット環境がある）
- ・時間
 - －第1稿完成まで計8日（火曜日、金曜日日中、土曜日がメイン？）：5日（水）、7日（金）、8日（土）、9日（日）、11日（火）、12日（水）、14日（金）、15日（土）

B. 自己の欲求

- ・文書を提出することの動機
 - －なんでもいいからどこかの学会誌に2月中に雑誌論文として掲載されること
 - －「メディア・リテラシー」の名刺代わりになる論文を作成すること
 - －教育研究論文のスタイルを作ること（「授業計画」、「授業内容」、「教育目的」、「教育目標」、「教育の手法」、「教育の効果」、「その授業の意義」

といった事柄の関係を明らかにする。教育研究における「データ」の位置（仮説の裏付け？ 理論生成の根拠？）を確定する）

- ・期待される成果
 - －学位条件が揃うこと
 - －名刺代わりになる論文が手に入ること
- ・「成功」と呼べる条件（何をもってよしとするか）
 - －どこかの学会の学会誌に雑誌論文として掲載されること
 - －O先生を納得させること（何について？）

2. テーマとミッション

2. 1 テーマ

情報教育の観点からのメディア・リテラシーの授業カリキュラムの提案と、提案カリキュラムの実践をふまえた考察の提示

2. 2 ミッション

この論文によって「博士学位取得」の資格を手に入れる。そのためには以下の条件が満たされなければならない。

- (1) 何らかの学会（情報処理学会？）に投稿論文として掲載されること
- (2) 遅くとも11月15日までに第1稿が完成すること

3. 作業課題

至上命題

とにかく11月15日（土）までに論文第1稿を完成する

作業課題1：すべてのデータを整理する

- (1) 「授業の効果」という観点からすべてのデータに目を通し、気になる個所に赤線を引く
- (2) データを見て気付いた点を箇条書きにリストアップする
- (3) これらのデータから何が主張できるのかを整理する
- (4) データの使い方を確定したうえで、それに従ってデータに分類を施す

作業課題2：導入から結論までの見通しを用意し、O先生に確認をとる

- (1) データを読みつつKJ法を進める
- (2) 論文の主題と論文全体の目標規定文を作成する
- (3) アウトラインを作成する

作業課題3：言及する関連研究をリストアップする

- (1) 西之園論文に目を通す
- (2) 自宅にある文献から関連しそうなものをピックアップする
- (3) アウトラインを眺めつつ関連研究を絞り込む

作業課題4：投稿する論文誌を決める

- (1) 情報処理学会以外で可能性のありそうなところをリストアップする
- (2) でき上がったアウトラインを見ながらO先生と相談する
- (3) 投稿する論文誌を決定し、完成稿の締め切りを設定する

*作業課題1、2が最優先。今回は第1稿を速やかに完成することが大事であるため、状況次第では作業課題3、4は後回し（完成稿を作成する際にきちんとする）でも構わない。